

## FUKUSHIMA から世界へ発信 —「プロジェクトFUKUSHIMA!」の取り組み

P R O J E C T  
FUKUSHIMA!



福島にゆかりのある音楽家や詩人を中心に、たくさんの有志が集まって立ち上がった「プロジェクトFUKUSHIMA!」。8月15日に福島で開催されるフェスティバルをきっかけに、長期的な視点をもった様々なプロジェクトが展開される予定だ。今回は、企画制作を進める実行委員のお二人に、プロジェクトの概要や問題意識についてお話をうかがった。

### プロジェクト発足

—これまでの経緯を教えてください。

沼田 大友（良英）君<sup>\*1</sup>の藝大での講義<sup>\*2</sup>にもあったように、まず初めに3月末に遠藤ミチロウさん<sup>\*3</sup>から大友君に電話があつて、福島で何かやりましようということになった。4月21日に東京で最初の会議があつて、その日はミチロウさんも含め大友君の知り合いが10人くらい集まつたんです。そこでどういうことが我々ができるのかということをおおよそ話し合いました。

野田 もともと8月15日にフェスティバルをやるうと言い出したのはミチロウさんでした。

沼田 そうそう。で、プロジェクトの大枠の企画は大友君が出した。それから5月7日に第2回目の会議が福島でありました。福島の人が50人以上いて、東京からは10人ほどが参加しました。福島の人たちも大友君とミチロウさんと、それから特に和合（亮一）<sup>\*4</sup>さんの呼びかけに賛同して集まつたんです。でもそこで全員が自己紹介しているうちに会議が

終わってしまつて（笑）。場所を移動して、飲みながら話し合つて、いろんな枠組みが決まつていきました。そのなかで、じゃあ私はこれやる、あなたはこれをとらうふううに自然発生的に役割が決まつてきたというのが初期の経緯で、翌日の8日に記者発表を行いました。その後沼田君が加わつてきて、徐々に組織的に動けるようになったんですけれども。

野田 僕が実際に関わり始めたのは5月の末くらいです。その段階では、急速にいろんな話が広がつて、でも全体を把握している人はおそらく誰もいなかった。なんとなくいきがかりでその部分をやることになつて。

沼田 彼はコンサートなどをつくるうえで全体を把握するプロフェッショナルなので、入つてもらふことによつてうまくいくだろうと大友君も思つたんでしょう。

野田 僕が加わつたときも準備は着々と進んでいたんですけど、とにかく話がどんどん大きくなっていなかで事務的なことが追いついてい

て片っ端から整理していったという感じですよ。

### 4つのプロジェクト

—プロジェクトの概要について教えてください。

野田 まず、8月15日に福島市内の四季の里とあづま球場の2か所をメイン会場にして、音楽を中心としたフェスティバルを行います。「8・15世界同時多発フェスティバル FUKUSHIMA!」と題して、日本全国、海外でも同じ日にいろんな人が自主的にコンサートを行います。現時点で40か所くらいが名乗りを上げて来ています。

沼田 海外ではいまのところ6〜7か所が予定されていて、最初に名乗りを上げてくれたのがジョン・ゾーン<sup>\*5</sup>の「ザ・ストーン」。5月にニューヨークでジョンに会つたとき「福島の状況はどうだ？」と聞かれて「震災と原発事故でひどい」と。福島だけじゃなくて全世界の問題だつてことをずっと話して。世界同時多発イベントでは、「FUKUSHIMA」は単なるシンボルであつて、

その問題は全世界の問題なんだというところを大きく含んでいます。

**野田** 世界中にその問題を共有してほしいということ。福島だけの問題ではないし、日本だけの問題でもないし、世界的な問題だと思うので。一緒に考えてほしいと思っています。原発事故も収束していない状況のなかで、放射線量の問題でフェスを開催することが危険だとすれば、それは中止せざるを得ない。危険な場所を安全ですとごまかしてやることはできないので。会場の放射線量を定期的に計測して公表していますが、それを見て考えて来るか来ないかを決めてほしい。でも福島でのフェスが中止になっても、同時開催なのでみなさんが共鳴してくればフェスはなくならないという考えなんです。今後、もっと広がっていくと思います。

**沼田** 国内では札幌から沖縄まで決まっています。ポスターやロゴマークは提供するけど、入場料の有無なども含めて各主催者に全部任せる形でやっってもらいます。

**野田** 「DOMMUNE FUKU

SHIMA!」(ドミューン) \*6 は記者発表の日から配信を始めて、月2回ペースで配信しています。毎回趣向を凝らして、福島の現状を福島からライブでお伝えしています。県内の人が30人くらい関わっていて、地元の人中心にやっています。

**沼田** DOMMUNEや、プロジェクトの支援金募集のしくみである「DIY FUKUSHIMA!」\*7という配信サイトは、システムを厚意で貸してくれているのがある。それがなければできなかった。

**野田** 「スクールFUKUSHIMA A!」は7月から募集をスタートします。和合さんの「詩の学校」と大友君の「音楽の学校」の二本立てでまずは始めて、フェスの後はこれがプロジェクトのメインになると僕は思っています。

### 長期的な視点をもった活動に

「プロジェクトFUKUSHIMA A!宣言」では長期的な展開を表明しています。

**沼田** なぜ今回のプロジェクトが長

期的かと言うと、そうならざるを得ない部分があるから。放射能問題はフェスをやって今年一年で解決する問題ではない。可能性としては被害が出てくるのは10年後とか20年後。それまでに解決するかどうかかわからないけど、少なくとも我々は継続的にやっていかなきゃいけないなと思っています。長期的ということの最大の理由は放射能なんですよ。

**野田** 最初だけ盛り上がり過ぎて後は急激に先細りになってしまうような支援では意味がない。そんなに簡単に解決する問題ではないし、簡単な状況ではない。

**沼田** 「フジロック」なんかは十年続いているけど、ああいった形とは全然違う。放射能問題と、単にフェスが目的ではないという部分で長期的にならざるを得ないんです。

**野田** 既存の大規模な野外フェスとはおそろしく違うものになるのですね、あまりの手作り感にびっくりすると思いますよ(笑)。予算もほとんどないので、みなさんの厚意に甘えてマンパワーでがんばってもらっています。資金的には、最初は自己

資金のみでしたが、いまは助成も少しずついただけています。

**沼田** 最初の頃はこんなに規模が大きくなるとは予想していなかった。無鉄砲に動き出して、カネが足りない、どうしよう(笑)。そのうち「DIY FUKUSHIMA!」を始めて資金に運用したり。最低金額が数百円からなんですけど、そこに多額の寄付をしてくれる人がいたり。非常にありがたいです。

**野田** 個人的なカンパをいただいたり、コンサートの収益を寄付していただいたり、海外から送金してくださった人もいます。フェスの運営面ではプロが手弁当で仕事を担ってくれたり、会社の復興支援の取り組みとして協力していただいたり、人材も機材もたくさん提供していただいています。



野田茂則さん／プロジェクト全体の進行管理を担当。音楽制作事務所「キャロサンブ」主宰

### 3・11以降の変化

―「宣言」では音楽や詩やアートの力についてふれています。

野田 僕たちはアーティストじゃないので、それについて語るのはおこがましいなと思っと思っていますが……可能性はあると思っています。でなきゃこんなことやっています。

ふだん音楽に携わる仕事をしていて、震災直後にすごい無力感を感じたんです。こんなにひどい状況になっていて、自分も何かしなきゃと思うんだけど何もしてないし、できることが何もないような気がして。自分がやっていることが小さくてつまらないことのように感じられて、暗澹たる気持ちになりました。でも今はそんなに捨てたものではないと思っっています。まだ何も成し遂げていないし、プロセスの途中なんですから、この活動をやっていることによつて自分も受け取るものがあります。いいことばかりじゃなくつらい現実も見ますが、でもこんなに一気にたくさんの人と知り合ったり話したりするようになるのは、震災前には思っってもみなかったですから。



沼田 順さん…「DIY FUKUSHIMA!」と世界同時多発フェスを主に担当。音楽レーベル「ダウトミュージック」主宰。

沼田 3・11以降変わったんだよね、ホントに。

野田 何かしなくちゃいけない、何かしたい、でも何もしてないというところへの後ろめたさみたいなものを感じている人はたくさんいると思います。そのおかげで僕らはやりやすい部分があつて、みんなが助けてくれる。誰かに何か相談すると力になってくれる。実行委員じゃなくても協力してくれている人がたくさんいます。

沼田 震災直後にお祭りを自主規制したりしていたけど、違和感があつた。お祭りつてもととは神様の怒りを鎮めたりする機能があるはずなのに、なんでそんなこと言われなきゃいけないんだと思っっています。要はフェスはお祭りだから。自分たちがやろうと。

野田 人間食べるものと寝るところがあれば、それで生きていけるかって言つたらそうじゃない。福島には逃げられないんじゃないって逃げない人もたくさんいる。それは自分が自分の生活や仕事の基盤になつていてから。お金や場所が用意されているからといって、おいそれと知らない土地へは行けない。やはりそこにいる理由と意味があると思うんです。そういう意味でも、福島で起きていることは他人の問題ではない。

沼田 僕が思うに、それは人の歴史と記憶なんだと思っ。たとえば神社にでつかい石があつて、小学校1年の頃〇〇君がおしっこして怒られた場所だとか、そういうつまらない記憶の積み重ねで人間はできているんじゃないか。歴史と記憶を捨てられなくてその土地を離れない人を非難はできない。人間関係や社会関係がものすごく複雑で、一概に誰が正しい、正しくないと言えなくなつている。あの地震と原発事故が起こつたがゆえに複雑な社会関係が露呈してしまつた。どこの地域にもあることだけど、これに関しては我々には解決できないでしょう、放射能がある限りは。

### ずっと文化のことをやつてきた

野田 なんでアートなのかというと、最初に代表者が「文化の側面から」と言つたのは置いておいても、自分たちにはできる、回路的にアプローチしやすいチャンネルが文化なんです。ずっと文化のことをやつてきたので、そのための方法論やノウハウや経験の持ち合わせはある。それが生きるのであれば、それを「プロジェクトFUKUSHIMA!」につぎ込んでいこうと。

沼田 文化つてことと言えば、美術や詩や音楽だけを文化というのはなくて、各々の地域にある気候にあった食生活だとか生活様式だとか、それらを総括して文化だと思っっています。今回の震災と原発事故で、そうした文化が根こそぎ奪われた。文化のないところに生活はないし、生活のないところにも文化はないと思っ。生活圏でなくなつた計画的避難地域に関しては、文化から生活から根こそぎ奪われちゃつたわけでしょう。そこにどういふふうになつた文化を根付かせるか。例えば生活様式や食事や子育てに関しては、

不謹慎かもしれないけど、放射能がある状況に適した食生活とか、そういう文化が生まれるかもしれない、長期的に見れば。10年、20年では解決できないから。

野田 除染の文化とか、放射線防護の文化とか、生きるために必要な知恵として発達するかもしれない。

沼田 めし食って除染して、内部被曝しないように生活するのも文化であれば、そういう人たちが生活以外に、音楽を聴くとか絵を見るとかも文化でしょ。僕の理解ではそれを全部ひっくるめて生活と文化なのね。大友君は文化の方から発信するって言うって、それもちろん正しいんだけど、でも地元の人たちが自分たちの力で作り上げてくのも文化だと思う。で、それをなんとか共同作業したい。これは個人的な意見です。

野田 豪雪地帯では雪かきや雪下ろしが必要なと同じように、除染や放射線防護をしないと生きていけない状況がある。

沼田 そういう文化が根づいたら悲

しいけどね。でも、ぶつぶつ言っても放射線はなくならないから、人間はサバイブするために何かしないとけない。悲しいけどその現実から福島の人たちも我々も逃れられない。世界中の人たちが逃れられない。だから「プロジェクトFUKUSHIMA!」に関しては、ものすごく意義のあることだと思っています。

野田 そこに住む人だけが考えるところのは重すぎる。そこで生きる人たちの抱えている重圧みたいなもの、ストレスになるようなことを、みんなですりつ担ってあげられるとずいぶん違うんじゃないかと。福島がいま抱えている状況を、他人の問題だと思っちゃいけないと思う。東京に暮らす自分にもその責任の一端はあるし、そういう問題だと思っているので、やっぱり知らない顔はできない。

沼田 震災以降いろんなことを考えているけど、めっちゃ人と話したくなるんだよね。話すことが山ほどあるんだよ。

—今日はありがとうございました。

(7月8日、都内にて収録)

\*1 ギタリスト／ターナーテーブル奏者／作曲家／映画音楽家／プロデューサー。1959年神奈川県横浜生まれ、10代を福島市で過ごす。実行委員会代表。

\*2 大友氏が4月28日に東京藝術大学で行った講義(テーマは「文化の役割について―震災と福島の人災を受けて―」。左記のウェブサイトでテキストが公開されている。

<http://www.japanimprov.com/yotomo/yotomoj/essays/fukushima.html>

\*3 ミュージシャン。1950年福島県二本松生まれ。実行委員会代表。

\*4 詩人。1968年福島県福島生まれ。実行委員会代表。

\*5 ニューヨーク出身の音楽家。「ザ・ストーン」は彼が経営するライブハウス。

\*6 USTREAMを用いたインターネットのストリーミングチャンネル。  
<http://www.donnunne.com/fukushima/>

\*7 主旨に賛同したアーティストの作品が投げ銭方式で購入できる。収益はプロジェクトの支援金に。7月22日現在、9作品を配信中。

取材・構成／吉田真也

写真／秋池智子

## 8.15 世界同時多発フェスティバル FUKUSHIMA!

日時: 2011年8月15日(月) ※開催時間調整中

会場: 福島市 四季の里・あづま球場 ほか

入場料: 無料

主催: プロジェクトFUKUSHIMA! 実行委員会

出演: 遠藤ミチロウ「スターリン246」／和合亮一「詩の礫」(朗読: 和合亮一／音楽: 大友良英、坂本龍一)／オーケストラFUKUSHIMA! (大友良英率いる一般公募メンバーによる特殊巨大オーケストラ)／プロジェクトMadamguitar! with 会津マスクワイア／七尾旅人+原田郁子スペシャルバンド ほか。  
順次ウェブサイトにて発表。

### プロジェクトFUKUSHIMA! 実行委員会

E-mail: jimukyoku@pj-fukushima.jp

<http://www.pj-fukushima.jp/>

※事務局ではプロジェクトを支援するカンパを受付中。ご理解とご協力をお願いします。

〈振込先〉

三菱東京UFJ銀行 吉祥寺支店 普通口座

口座番号: 0167448

口座名: プロジェクトFUKUSHIMA 実行委員会